

協議事項 1

地域公共交通導入伴走支援の方針について

令和4年6月24日提出

東広島市地域公共交通会議
会長 塚井 誠人

1 提案理由

地域公共交通導入伴走支援の方針について、協議を行うもの。

2 委託事業者選定方法及び実施結果

選定方法：公募型プロポーザル（公示日：令和4年4月15日）

実施結果：別紙「資料4」のとおり

3 コンサル事業者

株式会社バイタルリード広島支店

4 支援方針

別紙「資料5」のとおり

地域公共交通導入支援業務公募型プロポーザルの
実施結果に関する公表

令和 4 年 5 月 1 9 日
東広島市地域公共交通会議会長

- 1 業務名 地域公共交通導入支援業務
- 2 履行場所 東広島市内一円
- 3 特定者 株式会社バイタルリード広島支店
- 4 一次審査
- (1) 提案書提出期限 令和 4 年 4 月 2 2 日
- (2) 提出者数 2 者
- (3) 選定者 1 者
- 5 二次審査
- (1) 審査実施日 令和 4 年 5 月 1 8 日
- (2) 提案者 1 者

6 最終審査結果

評価項目		配点	採点
一次審査	参加資格・実績等	20	20
二次審査	技術提案等	80	67.6

1. 業務概要

1 業務名

地域公共交通導入支援業務

2 履行期間

自) 令和4年6月1日
至) 令和5年3月20日

3 発注者

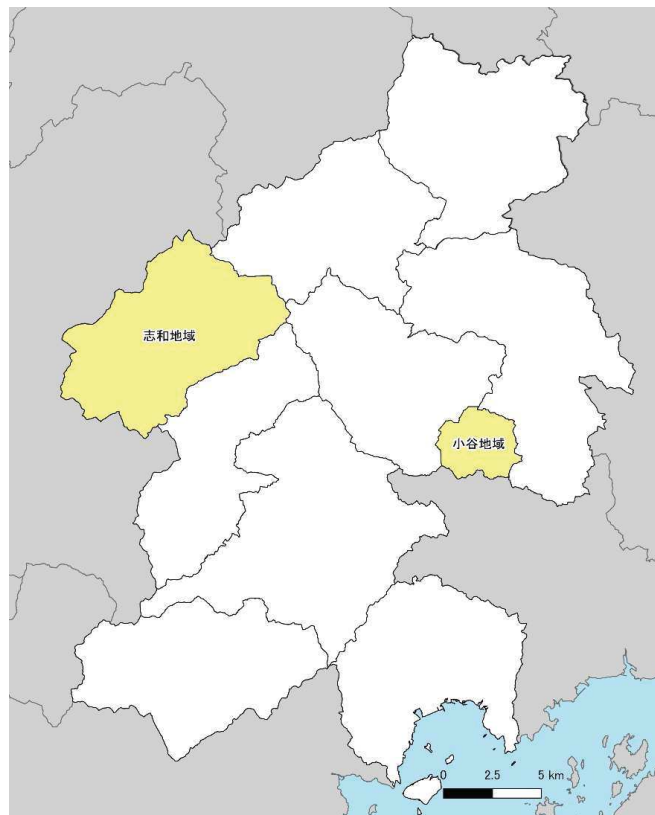
東広島市地域公共交通会議

4 受注者

株式会社 バイタルリード

5 業務の対象地域

志和地域, 小谷地域



6 業務背景・趣旨

本市の主要な域内交通機関であるバス路線は、人口増加や道路整備等都市の発展と比して大きな発展を遂げてはならず、利用者が年々減少する中で、交通事業者の経営も厳しい状況にあり、路線の廃止や赤字が増加するなど負のスパイラルに陥り、市域内の円滑な移動が確保されているとはいえない状況にある。

昨今の少子高齢化の急速な進展、厳しい社会情勢の中、本市において、都市の持続的発展と市民生活の向上を図っていくためには、より利便性の高い交通ネットワークを構築するとともに、住民自らが公共交通サービスを支える担い手であるという意識を醸成させ、利用者の増加が利便性の向上をもたらし、それがさらに利用者の増加へとつながる好循環を生み出す必要がある。

本業務では、地域が主体となった運行準備組織の設立を見込む地域を対象に、移動実態調査、潜在需要の掘り起こし、運行計画の作成等、運行組織への伴走支援を行う。

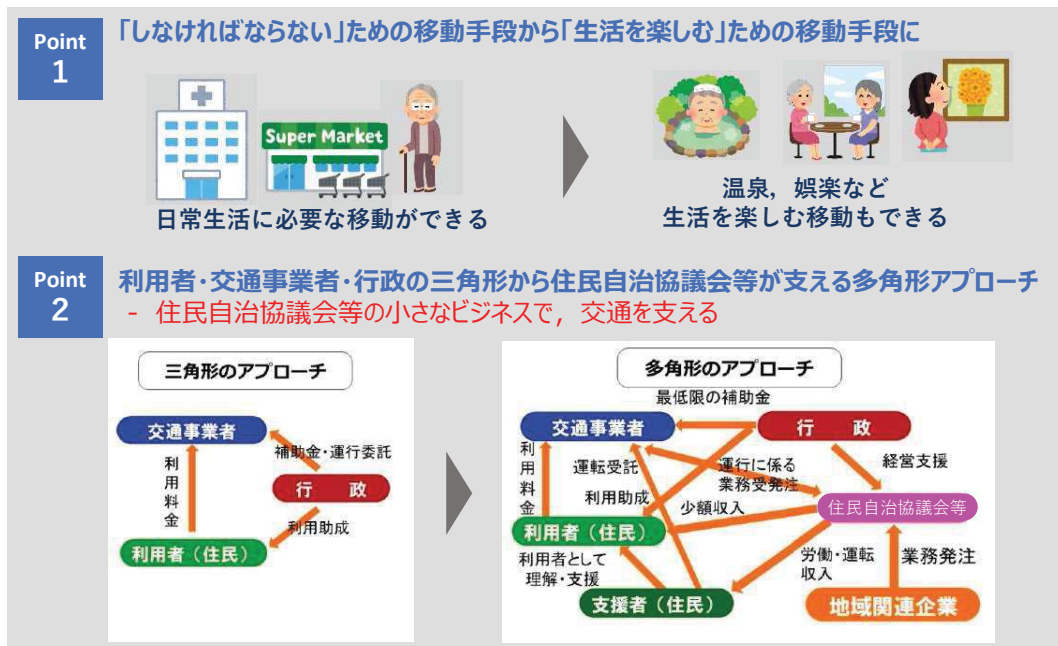
7 業務内容

(0) 対象地域における現状・課題認識

- ・志和地域，小谷地域は交通空白地に居住する住民の割合が高く，移動手段の確保が必要
- ・地域ごとに異なる移動需要・ニーズに対応し，地域特性を考慮した移動手段の検討が必要

これまでの課題解決よりも，**一步進んだ課題解決の実施に向けて**

- ・「しなければならない」ための移動手段から「生活を楽しむ」ための移動手段に
- ・交通事業者・利用者・行政の3者から，地域経営エコシステムで交通を支える仕組みへ，ビジネスモデルの転換



(1) 現状整理

- ・ 対象地域における、人口分布、施設位置等のデータを整理する。
- ・ また、公共交通の運行状況、利用実態を整理する。
- ・ 関連計画があれば合わせて整理する。

(2) 移動需要の検討

- ・ 「1」の結果を踏まえ、移動需要及び移動パターンを想定する。
- ・ 運行準備組織を通じたアンケート調査を行い、移動パターンごとの移動需要を把握する。
- ・ 移動手段を継続運行するために必要な利用者数を算定する。

1 移動需要の検討の考え方

- ①地域の移動需要を効率的に把握し、効果的な対策を検討するため、地域の移動のパターンを体系的に整理し、パターンごとに現在の移動手段、公共交通の顕在・潜在需要を把握する。
- ②新たな移動手段で対応する移動パターンの優先度の設定、運行継続の仕組みの検討を運行準備組織とともに行うことで、地域の主体性を引き出し、高める。
- ③運行準備組織とともに移動実態、潜在需要の把握を行い、人と人とのつながりで継続的に需要喚起・利用促進が実施される仕組みの基盤をつくる。

2 移動需要の検討の手法

(1) 移動パターンの想定

人口分布、施設分布、既存の調査結果の整理を行うとともに、運行準備会議での意見を踏まえ、新たな移動手段での対応が考えられる移動パターンを設定する。



(2) アンケート調査

住民を対象としたアンケート調査を実施し、移動実態、新たな移動手段の利用意向を把握する。運行準備組織を通じた調査とすることで、解像度高く地域の移動需要を把握できる。（世帯配布予定 志和地域：3,000、小谷地域：1,500）



(3) 移動需要及び現在の移動手段の把握

移動パターンごとの移動需要及び現在の移動手段について、アンケート調査結果を整理する。



(4) 望ましい交通体系と新たな移動手段が対応する移動パターンの設定

(3)の整理結果をもとに、望ましい交通体系と新たな移動手段が対応する移動パターンの優先度の設定を運行準備会議で行う。



移動手段の検討



(5) 継続運行するための利用者数の算定・地域で交通を支える仕組みの検討

運行継続に必要な利用者数を算定する。
地域で交通を支える仕組みを検討し、次年度から運行開始する新たな移動手段を確定する。



Point 1

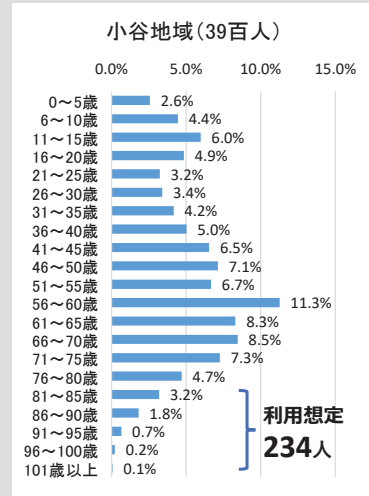
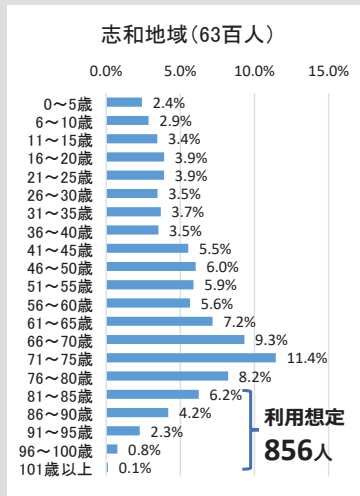
地域特性を考慮した地域ごとの移動に関する課題の設定

志和地域

高齢化が進んでおり、高齢者の移動、免許返納等が課題となっていると想定される。

小谷地域

56~60歳の割合が高く、志和地域と比較するとこれから高齢化が進む地域といえる。6~10歳、11~15歳の割合が比較的高く、団地のスムーズな代替わりが行われていると考えられる。団地の住みやすさの視点から子育て世代の子供の送迎なども課題となると想定される。



Point 2

アンケート調査結果と運行準備会議での結果整理イメージ

- <新たな移動手段で対応する優先度設定の考え方(案)>
- ①公共交通、スクールバス、病院の送迎などの移動手段がなく日常生活に支障が出ている、または家族の送迎などの負担が大きい移動パターンへ対応
 - ②生活を楽しむための移動パターンへ対応

移動パターン	現在の移動手段	公共交通			新たな移動手段での対応の優先度	
		現在の利用者数	利用希望者数(潜在需要)	利用頻度(平均)		
しなければならぬ	通学 義務教育---〇〇小学校	徒歩, 一部スクールバス	**人	**人	週5日	-
	〇〇中学校	徒歩, 一部スクールバス	**人	**人	週5日	-
	高校以上	自転車, バス, 家族の送迎, K&R (BR)	**人	**人	週5日	○
	通勤 地域内企業	自動車	**人	**人	週5日	○
	地域外企業	自動車, P & R (BR)	**人	**人	週5日	△
	通院 地域内	自動車, 家族の送迎, 病院の送迎	**人	**人	月2回	◎
	地域外	自動車, 家族の送迎, 鉄道, バス	**人	**人	1回/2ヶ月	◎
	買物 地域内	自動車, 家族の送迎	**人	**人	週2日	◎
地域外	自動車, 家族の送迎, 鉄道, バス	**人	**人	1回/2月	◎	
生活を楽しむ	行事・イベント参加	自動車, 家族の送迎	**人	**人	外出頻度が増える と生活がより豊か に	○
	友人宅への訪問	自動車, 友人による送迎	**人	**人		○
	娯楽・温泉	自動車, 家族の送迎	**人	**人		○
	子供の送迎 学習塾, クラブ活動	家族の送迎	**人	**人		週に3回程度
遠方に住む子や孫の帰省時の移動	家族の送迎, レンタカー	**人	**人	年に数回	○	

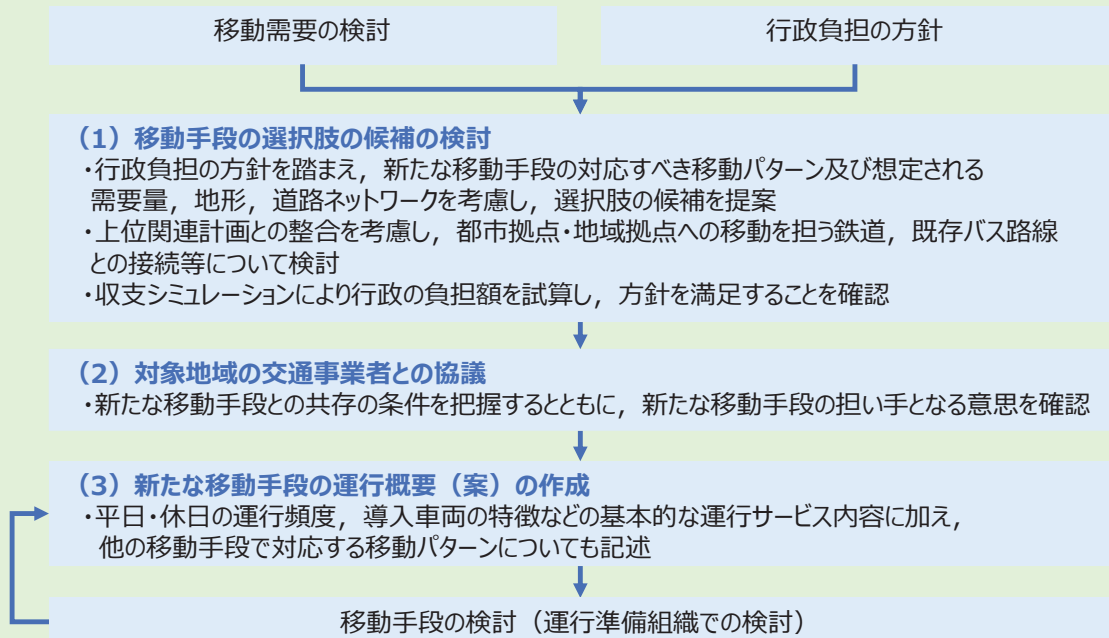
(3) 移動手段の検討

- ・ 「2」の結果を踏まえ、行政負担の方針等を基に、移動手段の選択肢の候補を検討する。
- ・ 検討した選択肢候補について、交通事業者の意見及び運行への参画意向を把握する。
- ・ 上記の結果を反映した移動手段の選択肢候補についての運行準備組織の意見を把握する。

1 移動手段の検討の考え方

- ①地域が望み、地域が交通を支えることにコミットした移動手段を導入できるように検討を実施する。
- ②東広島市の地域公共交通計画を始めとした上位関連計画との整合を図る。
- ③交通の専門スキルをフル活用して、地域にあった適材適所の移動手段を提案する。

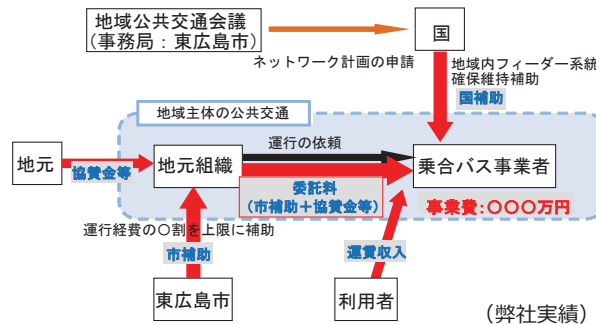
2 移動手段の検討の手法



Point
1

行政負担の方針等、スキーム案を固めてから検討に入る

例 黒瀬地域への地域公共交通導入時のスキーム案



※本業務では
地域エコシステムを
加えたスキーム案を
提示予定

Point 2 路線定期，路線不定期，区域運行（セミデマンド，フルデマンド），タクシー助成の豊富な導入・見直し実績にもとづく適材適所の選択肢候補の提案

Point 3 利用者，行政，交通事業者にとって三方良しを目指す移動手段の提案
選択肢の例）AIオンデマンド交通



Point 4 交通事業者の収入・生産性を考慮した検討
必要に応じて，交通事業者と守秘義務契約を締結し，運行日報などのデータ提供を受け，収入・生産性の検討を実施。
※弊社開発のAIオンデマンド予約システムのサービス提供での実績あり。

Point 5 住民にわかりやすい資料の作成

運行サービスの特徴を整理し，導入事例として写真等を用いて住民がイメージしやすい資料を作成。
(弊社受託業務)

区分	運行形態	使用車両	使用バス停	予約	備考
案1	路線定期運行	小型車両	既存バス停 + フリー乗降 (小用地区)	不要	<ul style="list-style-type: none"> ○利用実態に即して，車両を小型化(9人乗) (段差が低く，ステップがあるため乗降が楽) ○路線定期運行の継続(フリー乗降の継続) (利用者がいなくても運行する必要がある) ○通学はスクールバス対応となる ○課題の解決は一部可能
案2	デマンド	小型車両	既存バス停 (国道沿い) +	必要	<ul style="list-style-type: none"> ○利用実態に即して，車両の小型化(9人乗) (段差が低く，ステップがあるため乗降が楽) ○事前予約による運行 (予約のない便は運行しない) ○通学はスクールバス対応となる

(4) 運行計画の作成

- ・ 運行方針及び運行計画素案を作成する。
- ・ また，運行準備組織及び運行事業者候補の意見を反映した運行計画案を作成する。

(5) 運行準備会議の設計・運営支援

- ・ 運行準備会議の設計及び会議資料作成の支援を行う。なお、会議開催は各地域月1回程度とし、資料印刷は発注者が行う。
- ・ 必要に応じて、運行準備会議に参加し、ファシリテート及び議事録作成を行う。(各地域4回程度) 運行方針及び運行計画素案を作成する。
- ・ また、運行準備組織及び運行事業者候補の意見を反映した運行計画案を作成する。

1 運行準備会議の設計・運営支援の考え方

＜運行準備組織（住民自治協議会等）の力で実現＞

- ① 移動で困っている人を把握，確実に対応
- ② 「生活を楽しむ」ための移動への対応
- ③ 地域経営エコシステムで交通を支える
⇒地域の持続的発展と市民生活の向上

＜弊社の伴走支援＞

- ・交通の専門家としての提案・助言
- ・移動ニーズの把握から移動手段の検討までの全プロセスを住民自治協議会等と共に実施
- ・移動以外の課題にも着目，解決支援
- ・円滑な議論が行えるように会議を設計

2 運行準備会議の設計・運営支援の手法

次年度の新たな移動手段の運行開始に向けて，運行準備会議で議論が円滑に行われるように会議の設計を行い，運営の支援を行う

業務フロー	運行準備会議の検討テーマ（案）	
6月 (1) 現状整理	<ul style="list-style-type: none"> ・運行準備組織の設立 ・新たな移動手段導入までの検討スケジュール ・新たな移動手段のスキーム案 	
7月 (2) 移動需要の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・移動パターンの想定（体系的な整理） ・移動パターンごとの移動の現状及び課題 ・望ましい地域の交通体系 <ul style="list-style-type: none"> -新たな移動手段で対応する移動パターン -既存の移動手段での対応 -交通結節点 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通を地域で支える仕組みの検討 ＜収入＞ <ul style="list-style-type: none"> -協賛 -地域関連企業による業務発注 ＜活動＞ <ul style="list-style-type: none"> -需要喚起 -利用促進
10月 (3) 新たな移動手段の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな移動手段候補の設定 ↓交通事業者との調整後 ・新たな移動手段のサービスレベル（運行経路・区域，便数，運賃） 	
2月 (4) 運行計画の策定	<ul style="list-style-type: none"> ・運行計画案（専門知識が必要であるため弊社で作成） ・地域で支える仕組み構築計画（住民自治協議会等での作成を基本） 	

※地域公共交通会議で検討の進捗報告を行い，運行開始の3か月前までに運行計画の承認を得る

Point
1

全体討議と少人数に分かれたワークショップ形式の使い分けで円滑な議論を支援

全体討議，ワークショップ形式での会議の設計を行い，重要な会議ではファシリテーターとして運営を支援



住民ワークショップ（弊社受託業務）

Point
2

会議室での協議だけでなく現地踏査，乗車体験を実施することで運行準備組織と課題意識を共有し，行政・弊社との一体感を醸成



現地踏査・住民試乗会
（弊社受託業務）

Point
3

例 交通を支える仕組み

島根県大田市井田地区では小さなビジネスづくりに成功し，**収益の一部を運行経費に充当**することを検討中。



住民による焼肉のたれの生産/食堂の運営
資料：井田いきいきプロジェクトInstagram

(6) 許認可申請書及び地域公共交通会議審議資料の作成支援

- ・ 運行に伴う許認可申請書類について、作成主体となる事業者への支援を行う。また、地域公共交通会議での審議資料の作成支援を行う。

(7) 報告書作成

- ・ (1) ～ (6) の結果を簡潔にとりまとめた業務報告書を作成する。

II. 成果品

- (1) 業務報告書 A4版簡易ファイル製本 1部
- (2) 電子データ 1式